

はじめに

「住み慣れた地域でいつまでも長く暮らしたい」という思いは、誰しもが自然に抱く願いです。しかし、病気の発症や、親しい家族・友人との別れなど、年齢とともに経験する様々な出来事がこの願いをはばみます。とくに「本当にこのまま暮らしていけるのだろうか」と不安を抱かせる大きな原因となっているものの一つに「認知症」があげられます。

今と未来のために 「古い認知症観」を「新しい認知症観」に変革を!

古い認知症観

他人ごと、他者視点、問題重視、疎外、絶望

- ①他人ごと、なりたくない、目をそらす、先送り
- ②認知症だとなにもわからない、できなくなる
- ③本人ははなせない/声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る
- ⑤危険重視
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方
- ⑧地域で暮らすのは無理
- ⑨認知症は恥ずかしい
- ⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望的

新しい認知症観

わがごと、本人視点、可能性重視、ともに、希望

- ①わがごと、お互いさま、向き合う、備える
- ②わかること、できることが豊富にある
- ③本人は声を出せる/声を聞く
- ④本人が一番困っている。本人なりの意味がある
- ⑤あたりまえのこと(人権)重視。自由と安全のバランス
- ⑥本人が決める(決められるように支援)
- ⑦本人は一足先を行く人、支え手でもある
- ⑧地域の一員として暮らし、活躍(施設入所後も)
- ⑨認知症でも自分は自分、自然体でオープンに
- ⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望がある